

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

飯塚市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県飯塚市

3 地域再生計画の区域

福岡県飯塚市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は 1995 年の 140,463 人をピークに人口が減少局面に入り、2015 年には 129,146 人（2015 年国勢調査）まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2065 年には 85,925 人（2015 年対比で約 66.5%）となる見込みである。

人口の減少は社会減と自然減の要因がある。社会減の原因としては 25 歳から 35 歳の転出超過（▲187 人、本市の人口動態▲168 人「2018 年 福岡県移動調査」）があり、背景として、大学進学に伴う転入・転出と、大学卒業後の市外就職に伴う転出によるものであると推察される。自然減については、本市は全国、福岡県に比べ高い出生率（2017 年 1.75、福岡県（同年）1.51、全国（同年）1.43）で推移しているものの、人口を維持していくために必要な水準（人口置換水準=2.07）に比べて低い水準となっている。これは、前述のとおり 20 代から 30 代の転出が多いことから出生数へ影響があること、結婚に対する関心が低く、結婚に対して関心があっても仕事の都合や結婚に対する魅力を見いだせずに結婚できない状況が見受けられることが要因と考えられる。市民アンケート結果においても、結婚後の生活の不安や、適当な相手にめぐり会わないことから、結婚する必要性を感じないとの回答が最も高くなっている。

このような人口減少が続けば、生活関連サービス産業の撤退や税収減による行政サービスの低下、地域公共交通の撤退・縮小、空き家等の増加による治安の悪

化、地域コミュニティ機能の低下による共助機能の低下と地域防災能力の低下などの悪影響が生じ、地域魅力低下が人口減少を更に加速させるといった悪循環を生み、都市機能を維持できなくなることが懸念される。

これらの課題に対応していくため、若年世代の就労と子どもを産み育てやすい環境を整備すること、教育の充実、地域特性に合った就業機会の拡大を図り、人口流出に歯止めをかけること、人口減少・高齢化社会に対応した魅力ある都市を構築することにより、人口減少の抑制を目指すため、本計画期間において、次に掲げる基本目標の達成を図る。

- ・基本目標Ⅰ 地域を元気にするしごとづくり
- ・基本目標Ⅱ 未来を創るひとづくり
- ・基本目標Ⅲ 次代を牽引する魅力あふれるまちづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	生産年齢人口	75,180人	66,868人	基本目標Ⅰ
	市内従業所数	5,317	5,317	
イ	年少人口	16,411人	15,927人	基本目標Ⅱ
	市内の小学校・中学校 児童・生徒数	9,887人	9,595人	
ウ	老年人口	37,555人	40,353人	基本目標Ⅲ
	社会増減数	▲168人	0人	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する

特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

飯塚市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 地域を元気にするしごとづくり事業

イ 未来を創るひとづくり事業

ウ 次代を牽引する魅力あふれるまちづくり事業

② 事業の内容

ア 地域を元気にするしごとづくり事業

飯塚市産業振興ビジョン（2018(平成30年)3月策定)に基づき、「挑戦するひとと共に未来を創る」をコンセプトに、大学、企業、関係機関との連携のもと地場産業の振興及び創業の促進、新産業の創出を図り、雇用環境の充実と地域経済の活性化を進める。

また、姉妹都市サニーバール市（米国）との交流事業や東南アジアとの経済交流を通して、グローバル社会（経済）に対応した国際都市を目指す。

【具体的な事業】

- ・がんばる農業応援事業
- ・スマートフォンアプリコンテスト事業 等

イ 未来を創るひとづくり事業

男女の出会いの機会を設けるとともに、子育て世代の移住・定住を促進するため、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談支援体制の整備と多様化するニーズに応じた保育サービスの充実を図り、圏域はもとより都市圏との良好なアクセスを活かした移住・定住の促進を図る。

また、学力向上を重点課題とし、その土台となる豊かな人間性の育成と体力向上をめざした小中一貫教育の推進、ICTの利活用や特色ある学校教育の充実に取り組み、自らの力で生き方を選択できるよう必要な能力や態度を身に付けられるようにキャリア教育を推進する。

さらに、姉妹都市サニーバール市（米国）との交流事業をはじめとした国際交流事業の推進に取り組み、国際的に活躍できるグローバル人材の育成を図り、高校から大学への高等教育支援と就学支援を行い、未来

を創る人材の育成を図る。

【具体的な事業】

- ・ 妊婦健康診査事業
- ・ 産前・産後生活支援事業 等

ウ 次代を牽引する魅力あふれるまちづくり事業

本市のまちづくりの中核に位置付けられている、すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせる「健幸都市」の実現に向け、フレイル予防など長期的かつ横断的な視点に立った施策を推進するとともに、心豊かでいきいきと暮らせる健康長寿社会の形成に取り組む。

また、「住みたいまち 住みつづけたいまち」であり続けるため、星の特性である医療の集積を活かし、医療・介護・福祉の総合的な連携による地域の包括的な支援・サービス体制の構築を推進する。

本市と福岡・北九州都市圏を結ぶ広域交通を活かし、主要鉄道駅やバスターミナルの交通結節機能の強化や、交通結節点と都市機能施設、観光交流施設、市内各地域を結ぶ交通ネットワークの強化を図り、各地域の生活利便性の向上を図るため、拠点連携都市を推進する。

あわせて、本市の魅力を効果的に発信するシティプロモーションを推進するとともに、福岡・北九州都市圏との近接性や本市固有の地域資源を活かすため、八木山バイパスの4車線化や福岡市営地下鉄と福北ゆたか線及び香椎線との接続に向けた取組など都市圏までのアクセス性や周遊性の向上を図るための取組を幅広く推進し、交流人口拡大に向けた観光振興から関係人口への発展、移住・定住化の促進に向けた取組を進める。

地域コミュニティを醸成し、地域の繋がりを育むため自治会、まちづくり協議会、NPO法人、ボランティア団体等との連携を進め、「交流・コミュニケーション」によって地域の活力が持続する安全・安心の協働のまちづくりに取り組む。Society5.0の実現に向け、まちづくりに取り組む。

【具体的な事業】

- ・ 健幸ポイント事業

・健幸ウォーキング事業 等

※なお、詳細は第2次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の数値目標に同じ。

④ 寄附の金額の目安

3,000,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度9月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後速やかに飯塚市公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで